

広報誌 すこやか

第37号

第51回 日本人間ドック学会学術大会

2010年8月26日(木)・27日(金)

旭川市民文化会館・旭川グランドホテル

吉田 威 (医療法人社団慶友会 吉田病院 理事長・病院長)

New
Doctor

肝臓病センター
消化器内科医

にしかわともや
西川智哉先生

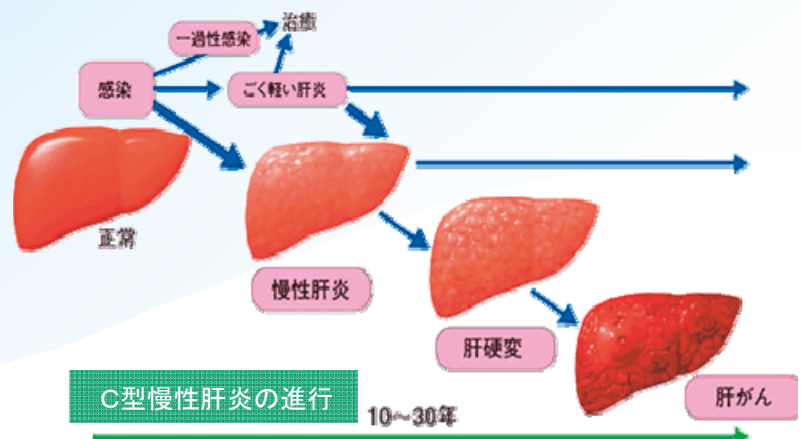


-Profile-

旭川医科大学 医学部・卒
日本内科学会認定総合内
科専門医

C型慢性肝炎とは

C型慢性肝炎は過去に受けた輸血、血液製剤の投与、鍼治療、刺青、覚醒剤の注射などがきっかけでC型肝炎ウイルスに感染することにより、肝臓に慢性的な炎症が起こる病気です。初期にはほとんど症状はありませんが、放置しておくと、長い経過のうちに肝硬変や肝臓に進行しやすいことが知られています。わが国には100人に1~2人の割合で、C型慢性肝炎の患者さん、あるいは本人も気づいていないC型肝炎ウイルスの持続感染者(キャリア)がいると推測されています。現在、原発性肝臓癌による総死亡数は年間3万人を超え、悪性腫瘍による死因の第4位となっています。原発性肝臓癌の7~8割がC型肝炎に関連するものであり、インターフェロン(IFN)によりC型慢性肝炎をいかに治療していくかが大きな課題となっています。当院ではC型慢性肝炎の診断、治療に積極的に取り組んでおりますので、気になる方は是非ご相談下さい。



見逃すな！心筋梗塞のサイン

「胸が痛い」だけが心筋梗塞じゃない

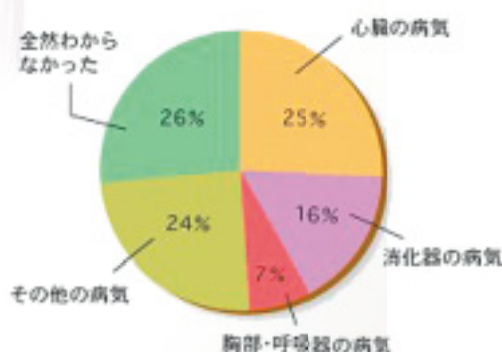
急性心筋梗塞の発作を起こしたとき、何か心臓がおかしいと思った人は4人に1人だけ。とっさに「心筋梗塞だ！」と思った人は1割もいません。

初めて発作を経験した患者150人を対象とした意識調査によれば、62%の人は発病する以前に「心筋梗塞」という病名を知っていたが、いざ発病したときに思い浮かべた病名を挙げてもらったところ、「心臓病」は25%だけで、単なる疲れだと思った人も14%いて、**4人に1人は自分の体に何が起こったのか全然わからなかった**と答えています。

肩の痛みや胃痛の症状があることも

発病したときにどんな自覚症状があったかを尋ねたところ、4人に3人は「胸の痛み」や「胸苦しさ」など胸部の症状を挙げましたが、全体の約半数は**「胃痛」などの消化器症状のほか、「だるさ」や「肩の痛み」**など、それ以外の症状も挙げました。発病時に感じる自覚症状は、他の調査等でも指摘されているとおり、かなり多彩であることがわかっています。重要な生活習慣病の一つとして、心筋梗塞という病名は知られるようにはなりませんが、いざそれが自分の身に起きたときにそれと気づかず、早期に治療できる機会を失っていることが多いのが現状だと考えられます。

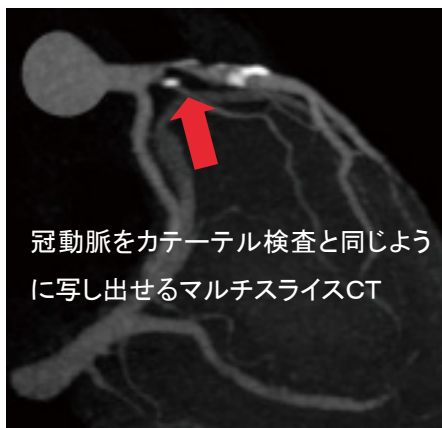
急性心筋梗塞が発症したとき
どんな病気だと思ったか



心筋梗塞の早期発見に期待される心臓CT

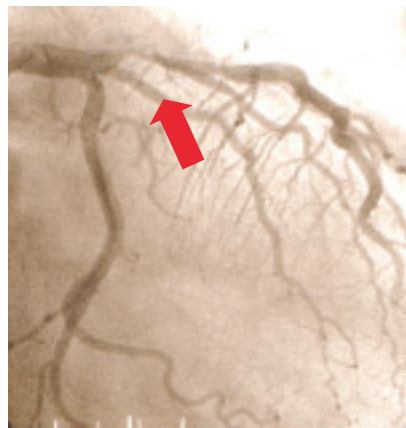
最近、新しいCT機器であるマルチスライスCTが開発され、心臓にも応用されるようになってきました。従来は、狭心症の原因となる冠動脈(心臓をとりまく血管)の狭窄(つまり)を発見するために、直接手足の動脈からカテーテル(管)を入れていく心臓カテーテル検査が当たり前のように行われてきましたが、**心臓カテーテル検査に代わって、冠動脈の狭窄の発見にCTが使われる**ようになりました。マルチスライスCT検査は大きな輪のような機械の中を身体がくぐり、数十秒ほど息を止めるだけで、冠動脈の異常を見つけることができ、カテーテル検査に比べ危険性はほとんどないという利点があります。当院も積極的にこの心臓CT検査を実施し、心筋梗塞の早期発見に力を注いでいます。気になる方は担当医師、スタッフが丁寧に説明しますのでご相談ください。

右の画像は当院循環器内科に受診された患者様の心臓CT画像です。画像上、冠動脈の根元が一部狭くなっていることが判明し、心筋梗塞の早期発見をすることができました。患者様は『**こんなに簡単に心臓の狭窄が見つかるとは思わなかった**』と感嘆の声を上げていました。



冠動脈をカテーテル検査と同じように写し出せるマルチスライスCT

当院のCTで撮影された心臓CT



心臓カテーテル検査

がんばる

ナースに聞く



緩和ケア認定看護師
遠藤 恵さん

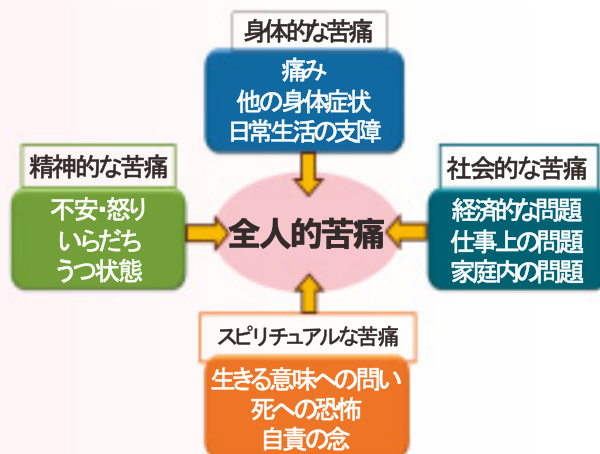
専門的知識、技術を持つ認定看護師

認定看護師とは、日本看護協会認定の資格で特定の看護分野において、「熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかる事を目的」として、実践・指導・相談を行う事を役割とされています。現在21分野あり緩和ケア認定看護師の役割は、「**徹底した苦痛症状の緩和(疼痛及び疾患に伴うその他の苦痛症状の緩和)**、**リンパドレナージ**、**呼吸理学療法**、**口腔ケア**、**エンゼルケアを特化技術**としています。又、療養の場に応じた患者・家族の QOL の向上 と患者・家族のグリーフケアを行う」とされています。

ある患者さんの死をきっかけに

新人看護師の時に 30 代のがん患者さんと出会い、前向きに闘病されていましたが病気が進行し、耐え難い呼吸困難状態となりました。鎮静して症状緩和を図り、お子さんが立ち会う中で看取りを迎えられました。その時にお子さんに何も言葉をかけられず、自分の無力さを感じました。その後、努力してケアを行い看護経験を積みましたが、同世代や 40 歳代の患者様の苦痛が強い状態での看取りを続けて経験しました。その時に再度無力さやジレンマを感じ、**もっとケアできる看護師になりたい**と考え、緩和ケア認定看護師の研修センターを受験しました。

全人的苦痛(Total pain)の理解が大切



外来や病棟患者さんへの幅広いケアを

緩和ケア・ホスピスケアと聞くと‘ターミナルケア’の印象が強いと思いますが、WHOは2002年に「緩和ケアとは、**生命を脅かす疾患**による問題に直面している**患者とその家族**に対して、**疾患の早期から痛み、身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題**に関して、きちんとした評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、**QOLを改善**するためのアプローチである。」と定義しています。

私自身も癌にかかった患者様の早期からアプローチをしていくことがとても大切であると考えています。慢性で進行し苦痛が強まる事が多いとされて現在取り組みがなされているがん、AIDS患者だけではなく、難病、心臓・呼吸器・腎臓の慢性疾患患者、認知症、高齢者にも必要なケアであります。

緩和ケアとは、その人らしく人生を全うできるように支援する事であり、症状緩和、チーム医療、コミュニケーションが大切で、多職種との協働により効果的なケアに繋がると考えます。吉田病院に勤務して日が浅いですが、多職種の方で患者さんに関わり、看取りに近い患者様へのリハビリやMSWのサポートもあり、先生方も患者さん・ご家族の要望に対し丁寧に面談してくれていて、スタッフの方も優しく患者さんの希望への配慮にも目を向けていると感じられました。現在は7階病棟に勤務していますが、他病棟や外来患者様のケアにも少しずつ関わりたいと考えています。看護手順の作成、意思決定支援、療養の場の選択、患者様・ご家族の不安・疑問の相談、症状緩和の難しいケース、ケアの工夫について、ケアを受けたい方や気になる患者様がいましたら、一緒に考えてケアさせていただきたいと思っております。内科病棟・腫瘍内科病棟、緩和ケア病棟勤務の経験を活かしつつ、教わりながら皆さんと共にケアにつなげたいと思っております。又、地域の方々や他施設の方とも連携しながら‘緩和ケアの広がり’に向けて取り組みたいと考えていますので宜しくお願いします。

外来診療担当医師シフト表

		月	火	水	木	金	土
午		武田寛樹 (循環器・内科)	武田寛樹 (循環器・内科)	岡田瑞穂 (糖尿・内科)	武田寛樹 (循環器・内科)	武田寛樹 (循環器・内科)	(武田寛樹) (馬場勝義) (横田欽一) (上田修) (武内周平)
		平井克幸 (血液・内科)	馬場勝義 (一般内科)	平井克幸 (血液・内科)	馬場勝義 (一般内科)	平井克幸 (血液・内科)	
		横田欽一 (消化器・内科)	横田欽一 (消化器・内科)	武内周平 (放射線・内科)	岩島保法 (糖尿・内科)	横田欽一 (消化器・内科)	
		鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)		鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	
		上田修 (一般内科)	上田修 (一般内科)	上田修 (一般内科)	上田修 (一般内科)	上田修 (一般内科)	
		武内周平 (放射線・内科)	【呼吸器】 大崎能伸(旭医大)	【循環器】 佐藤伸之(旭医大)	【漢方】 村主明彦予約制	【呼吸器】 豊嶋恵理(旭医大)	
		【呼吸器】 奥村俊介(旭医大)	武内周平 (放射線・内科)			岡田瑞穂 (糖尿・内科)	
前	外科	工藤浩市	工藤浩市	工藤浩市	工藤浩市	工藤浩市	(工藤浩市)
	整形外科	井上謙一	【整形外科】 吉岡研之(慶応)	井上謙一	井上謙一	井上謙一	(井上謙一)
	糖尿病センター	岩島保法	岡田瑞穂	岩島保法	岡田瑞穂	岩島保法	(岩島・岡田)
	肝臓病センター	長谷部千登美	長谷部千登美	長谷部千登美	長谷部千登美	関谷千尋	澤田康司(旭医大)
西川智哉		◎古川博之(旭医大) 紀野修一(旭医大)	西川智哉	大竹孝明(旭医大)	西川智哉	大竹孝明(旭医大) 阿部真美(旭医大)	
午後	内科(前半)	横田欽一	鈴木まゆみ	武内周平	鈴木まゆみ	鈴木まゆみ	
	内科(後半)	上田修	岡田瑞穂	上田修	岩島保法	上田修	
	その他		【整形外科】 ☆吉岡研之 慶応大学出張医		【漢方】 ☆村主明彦予約制 北里研究所 東洋医学総合研究所	【乳腺外来】 北田正博(旭医大) 佐藤博(旭医大) 工藤浩市	

その他の外来のご案内

- 眼科—毎週木曜日(午前):旭医大眼科派遣医師
- 婦人科—毎週木曜日(午前):旭医大婦人科派遣医師
- 甲状腺—毎月第4土曜日:島袋嘉修医師(島袋内科医院)
- 歯科—月曜～土曜日(第1・3土曜休診):小西文医師
月2回(月)在宅診療:小西文医師
院内診療:馬淵 亜希子医師(北大口腔外科)
:小堀 善則医師(北大口腔外科)

- ※各医師の都合により診察日・時間等の変更がある場合がございます
ご了承下さい。(受診の際は事前にお問い合わせ下さい)
- ※土曜日の診察医師は交代制となっております。
- ※午後内科外来の時間は、前半13:30～15:30
後半15:30～18:00です。
- ※出張医・派遣医は青文字で記載しております。
- ※◎印の古川博之医師の診察は月2回となります。
- ※☆印の慶応大学出張医・村主医師の診察は16時までとなります。
- ※上記のシフト表は平成22年5月13日現在のものです。



医療法人社団慶友会

吉田病院

070-0054 北海道旭川市4条西4丁目1-2

TEL 0166-25-1115 FAX 0166-25-4650

